

平成 28 年度 租税教育実践事例（3 学年）

登米市立南方中学校
教諭 鈴木 一郎

1 はじめに

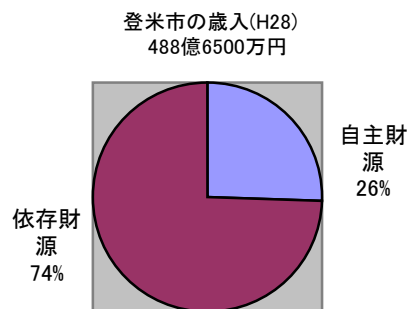
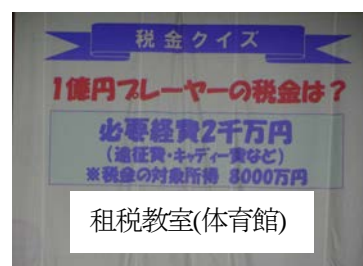
3 学年の公民学習では、第 3 章 3 節「地方自治と私たち」、第 4 章 4 節「政府の役割と国民の福祉」などが租税教育に関わりの深い単元である。今年度は夏休み前に、税務署に出前授業を依頼した。税の専門官の講話を聴くことで、税のしくみや役割について、より理解を深められるのではと考えた。税の作文との関連もあり、夏休み前に実施し、単元を入れ替えて「政府の役割と国民の福祉」についての授業を、租税教室直後に実施した。

租税教室では、講話に加えて DVD 視聴などもあり、身近な生活と税の関わりや税の役割について理解を深めることができた。さらに授業では税の種類と役割について学習した。

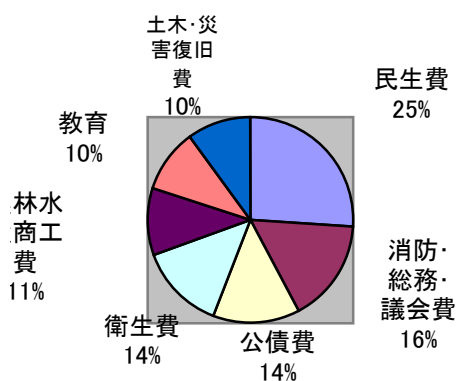
10 月に地方自治単元を指導した際、地方財政における財源の確保との関連で税について改めて指導した。以下はこのときの指導案になる。ねらいは、地方行政にとって財源の確保は切実な問題であるが、少子高齢社会を迎えて、多くの自治体が自主財源を十分に確保できない状況にあることを理解させ、住民として納税の義務を果たすことが、自分たちの生活を支えることになることを納得させることをねらったものである。

2 授業について（10 月実施）

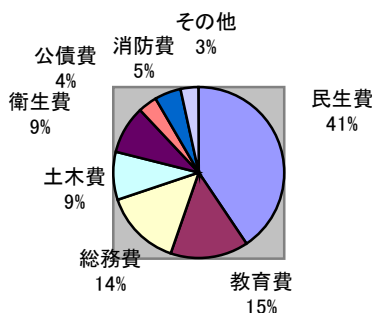
単元名	地方自治
本時の目標	・地方都市の抱える財政問題について理解を深め、地域に関わろうとする心を育てる。
生徒の実態	・租税教室と税の種類と役割の授業を行ったので、所得税、消費税、直接税、間接税、累進課税、国民の三大義務といったことがらについてはほぼ理解できている。税の作文を読んでも、税がなければ日常生活に支障が出ることは理解している。
授業づくりの主な視点	・登米市の財政状況をホームページで確認させ、興味を引き出す。県内で少子高齢化率の最も低い富谷市の財政状況と比較させ、自治体によって自主財源・依存財源の割合が異なることに気付かせる。そのうえで、納税の義務の大切さを理解させる。 ・班内で自分の考えを出し合い、全体の場で班の代表が必ず発表ができるように励ます。



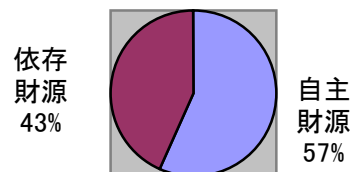
登米市の歳出(H28) 488億6500万円



富谷市の歳出(H28)129億2600万円



富谷市の歳入(H28)
129億2600万円



3 授業の流れ 準備物：資料（登米市広報または議会だより、宮城県白地図、教科書・資料集、ノート）

テレビ パソコン

主な活動	形態	□留意点 ★評価
<p>1 登米市と富谷市の財政状況のグラフをみて読み取れることを指摘する。 登米市と富谷市のデータを比べてどんな違いが読み取れるか。</p>	<p>一斉 5分</p>	<p>□テレビ画面でグラフを紹介し、板書し、写させる。 依存財源と自主財源について復習する。</p> <p>インターネットを使って、ホームページを見せて、誰でも自治体の財政状況を確認できることを紹介し、登米市と富谷市の財政のデータを見せる。</p> <p>□宮城県地図で登米市と富谷市の位置を確認する。</p>
<p>2 補助金にたよる財政は健全とはいえないことを理解する。</p>	<p>一斉</p>	<p>教科書で財政の健全化を読ませる。</p>
<p>3 なぜ富谷市の自主財源は50%を越しているのか考える。 ・班内でいろいろな考えを出させる。</p>	<p>個別</p>	<p>□グラフのような違いがなぜ生じるのか考え、話し会わせる。</p>
<p>4 財政健全化に向けてどんな取組をすればよいのだろう。 ・班内でいろいろな考えを出させるが、最重要施策をしばらせる。</p>	<p>一斉</p>	<p>□テレビのマップで地域の比較をさせる。 ・話し合いがしやすいように、白地図にグラフを描かせる。 ★人口や面積の違いに注目した生徒がいたら、着眼のよさを評価する。 ★人口密度、企業数等他の要素にふれた生徒がいたら評価する。 ★高齢化率、生産人口の割合等にふれる生徒がいたら評価する。</p>
<p>5 ふるさと納税に関する新聞の論説を読む</p>		<p>学び合い 【思考・判断・表現】</p>
<p>6 学習の振り返り 感想をノートにまとめる</p>		<p>□自分の言葉で表現することが大切であることを理解させながら。みんなに聞こえる声で発表させる。</p>

4 授業を振り返って

- ・登米市の市町村別の地図を示したとき、9町の位置関係を正確に把握している生徒が意外に少なく、中学校における地域の地理学習が不十分だったことが反省された。
- ・市役所に就職したいと希望する生徒が数名いるので、地域の課題として少子高齢化に触れることを意識した。地方財政の授業を通じて、少子高齢化は切実な問題であることを理解させられたと思う。
- ・生徒の何人かは「ふるさと納税」について知っており、メリットだけがあるものととらえているようであったが、「ふるさと納税はオレオレ詐欺に等しい」という、かつて知事を務めた慶応大学教授の新聞論説を紹介したとき、ふるさと納税のしくみにも賛否両論があることを理解したようである。これはメディアリテラシーにもつながるものと考え。当地に住んでいる人が自分の地域に税を納めるのが基本であるという考え方に立てば、住民税の重要性を意識してもらえるのではと考えた。
- ・税の公平性に関しては、「直接税」と「間接税」のどちらの比重を重くすべきかという問いかけよりも、「所得税」と「消費税」ではどちらの比重を重くすべきかという問いの方が、生徒は意見を述べやすいように感じた。